

主 論 文 要 旨

No.1

報告番号	㊦ 乙 第	号	氏 名	布山 美慕
主 論 文 題 目： 読者の熱中状態の複数指標の関係性による記述： 読者の変化と“忘我”状態の関係の解明に向けて				
(内容の要旨) 小説を読むことで現実世界の感じ方が変わり、また現実世界の生活によって読書が変わって感じられることがある。先行研究によって、とくに読者が熱中することで現実世界に対する認識や理解の変化が起こる、あるいは促進されるとの理論的・実証的主張がなされてきた。こういった主張を受けて、読者の熱中状態は質問紙調査を用いた様々な分類や特徴づけが行われてきた。しかし、熱中状態では自己への気づきが低下するとされ、まさに熱中していたときの状態を高い信頼性をもって報告することは難しいと推察される。そのため、読者の内観報告にのみ依拠して熱中状態を分類し特徴づける方法の妥当性には疑問があり、それぞれの研究で読者の熱中状態として報告されている状態が、時間的に異なる個人内、あるいは個人間で一貫性をもった同一の状態なのか確かではない。 本論文は、読者の熱中状態がある一貫性をもった状態として同定可能か調べ、同定可能であればその同定に用いた指標の意味で特徴づけを行うことを目的とする。この目的のため、同定方法として、1つの指標のみに依拠するのではなく、読者の熱中状態に関連しうる相補的な複数指標間の一貫した関係性の有無によって同一性を調べる方法を提案した。この方法を用いて、熱中度報告と身体情報（動作・姿勢、および心拍数）、熱中度報告と読解時間の統計的分布、熱中度報告と読後の発話プロトコルデータを実験で取得し、各指標間の時間的相関を分析した。その結果、それぞれの指標間で一貫した関係性が確認された。この結果は、熱中状態が、それぞれ、主観的な熱中度と身体情報、主観的な熱中度と読解処理の質的变化、主観的な熱中度と読後の報告の間の一貫した関係性の意味で、ある一貫した状態として同定可能であることを示唆する。さらに、それぞれの指標を解釈することで、熱中状態が交感神経優位の状態であることや、作品中の予想外の出来事によって読解処理の質的变化を伴うより深い忘我状態になる可能性が示唆された。 キーワード：読者，熱中，身体状態，読解処理，一貫性，指標間の関係性				